

令和4年度 卒業式式辞

春の訪れとともに、学校は、別れと出合いを繰り返します。今年もその季節を迎えました。雲一つない青空のもと、本日、ここに多数のご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度東京都立豊多摩高等学校第七十五回卒業式を挙行できますことは、本校にとりまして、この上ない慶びとするところであります。

保護者の皆様、心からお祝い申し上げます。卒業生の皆さんは、この三年間を通して心身ともに成長されて成年年齢を迎えました。まさしくこの卒業式が、大人として力強く歩み始める日であると言えるのではないのでしょうか。今日の凛々しい姿に、これまでのご苦勞が実を結ぶ瞬間を実感されていらっしゃるのではないかとお察しいたします。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんは豊多摩の第75期卒業生です。同窓生は皆さんを合わせて 26,561 名となりました。皆さんもご存じのように同窓生の方々は、母校愛に溢れ、今も豊多摩に足を運び、学校のために尽くしてくださる方がたくさんいらっしゃいます。皆さんも同窓生として、同様に母校豊多摩を愛してくださることを願っています。

さて、皆さんは長引くコロナ禍にあって、「入学式もできなかった」などという言葉が枕詞のように繰り返された学年でした。学事報告を見ますと、入学式は中止…分散登校…自宅学習…オンライン授業…動画配信の記念祭、学年別の体育祭、修学旅行の延期…そして中止…皆さんは幾多の制約の中で苦難の高校生活を強いられてきました。皆さんからすれば、納得のいかないことだらけだったに違いありません。マスクのせいで友達の顔もよく知らない皆さんのことを不憫に思いながらも、私たち教職員は、みなさんを励まし、くよくよしてはいけなと言いつけてきました。

松下幸之助は、こう言っています。「困難なことがあっても、長い人間の歴史を俯瞰してみれば、発展の一コマである。そうした見方ができるようになると、困難は困難でなくなり、打開・発展の道が見えてくる。」と。将来、この高校生活を懐かしく思い出す時、皆さんは確実に発展の道を進んでいるのです。だからこそ、「今は辛くとも、困難な状況を積極的に受け入れよう」などとお話ししてきました。

コロナのことも、ロシアのウクライナへの軍事侵攻のことも、12 年前の東日本大震災と同様に、ごく近い将来、教科書に記載される、私たちはそんな激動の歴史の中に生きているのです。過去を悔やむのではなく、明るい未来に思いを馳せたいと思われています。

「雲外蒼天(うんがいそうてん)」という言葉があります。雲外は雲の外、蒼天は青い空。すなわち雲の外には青空が広がっているという意味です。皆さんも飛行機に乗ったときに、あるいはよく似た経験をなさっているかもしれません。飛行機が雲の上に出て、太陽の光を遮

るものがなくなり、眼下一面に白い絨毯のような雲、見上げれば眩いばかりの青い空が広がっている。そんな爽快な光景を思い浮かべてみてください。雲外蒼天とは、転じて「苦しみを乗り越えれば、すばらしい世界が待っている。」ということを表しています。

コロナ禍にあって、私たち教職員も自らの不甲斐なさに苛立ちを覚え、陰で涙したこともありました。そんな私たちの沈んだ気持ちを吹き飛ばしてくれたのは、見通しのきかない雲の中のような高校生活にあって、希望を捨てることなく、できうる限りの努力をしてくれた皆さんの姿でした。

私たちは目頭を熱くしました。最初で最後の合唱コンクール、皆さんの美しい歌声に。

私たちは胸をなでおろしました。最後の記念祭、皆さんのひたむきな取り組みや爽やかな笑顔に。

私たちは心を躍らせました。最後の体育祭、力強い躍動、三年間誰よりも頑張った皆さんの努力と成果に。そんな一コマコマ、そして今日の晴れ姿を、私たちは記憶に留めたいと思います。

卒業生の皆さん、新しい時代がすぐそこまで迫っています。壇上のアクリル板がなくなりました。みんながマスクを外す日も近い。やっと本来の自分を取り戻すのです。皆さんは、豊多摩で学んだことを存分に発揮してください。自主自律の名のもとに日々の学習や部活動などを通して、皆さんが身につけた積極性や主体性、協調性やコミュニケーション能力などは、いつの日か必ず世界の平和を築く礎、予測不能な社会を生きる対応力となって具現化するはずです。ここで磨いた自分自身を信じてください。豊多摩の学友らしく、明るく元気に、伸びやかに。真摯に、そしてポジティブに。健全な批判的精神と実行力を持ち続けてください。皆さんが学んだ、ここ豊多摩での日々が、生涯皆さんの心に刻まれますよう願って、新しい世界を歩いていく皆さんにエールを送ります。

保護者の皆様に申し上げます。卒業生の皆さんが、それぞれの道で力強く羽ばたいていけることを祈ります。これまで、PTA の諸活動やおやじの会などを通して、多方面に渡るご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。学校として行き届かぬ点多々あったかと存じますが、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、厚く御礼申し上げ、式辞といたします。

令和5年3月11日

東京都立豊多摩高等学校長

枋倉 和則